

2023年度第1回町田市立国際版画美術館運営協議会議事要旨

■日 時：2023年9月27日（金） 午前10時30分

■会 場：町田市立国際版画美術館 講堂

■内 容：

1. 報告事項

- (1) 2022年度の美術館評価について …… (資料1)
- (2) 2022年度後期の美術資料の収集状況について …… (資料2)
- (3) 展覧会の振り返りと総括について
展覧会事業
 - 「版画×写真」展 …… (資料3)
 - 「自然という書物」展 …… (資料4)
 - 「出来事との距離」展 …… (資料5)
- (4) 2023年度前期の普及事業の振り返りと総括について …… (資料6)

2. 審議事項

- (1) 2024年度事業（案）について
展覧会予定 …… (資料7)
普及事業予定 …… (資料8)

3. その他

- (1) 仮処分申し立てについて …… (資料なし)
- (2) 芹ヶ谷公園“芸術の杜”パークミュージアムのスケジュール等について
………… (追加資料)

■出席委員： 諸川 春樹、三上 豊、降旗 千賀子、生嶋 順理、三竹 和行
・ (敬称略)

■出席者： 文化スポーツ振興部 篠崎部長、大久保館長、星野副館長、
和南城係長（学芸係）、渡邊係長（普及係）、
安田係長（管理係）、西（管理係・書記）

■会議録（要約）

○開会の宣言（国際版画美術館副館長）

○町田市文化スポーツ振興部長挨拶

○館長挨拶（国際版画美術館館長）

○委員紹介

○会長、副会長の選出

(会長には諸川委員、副会長には三上委員が選出されました。)

○美術館職員紹介

1. 報告事項

(1) 2022年度の美術館評価について

○資料1について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

委員

資料1の「3. 事業の成果」にある成果指標「国際版画美術館展覧会観覧者数」について、この数字には、市民展示室の来場者や春の市民美術展への来館者は含まれているのか。

事務局

含まれていない。資料1の「6. 個別分析」のグラフの施設利用者数には含まれている。なお、施設利用者数には、講座の利用者なども含まれている。

委員

展覧会観覧者数は2022年度実績が約11万人だが、美術館全体では、もっと人が来ている。公表するときは、こちら数字(施設利用者数)をもっと堂々と出していてもいいのではないかと思う。

委員

美術館のトイレに関して、洋式トイレの数が少なく、和式トイレの数が多。ウォシュレットもない。「国際」と名がつく美術館がこれでいいのだろうか。それを理由に「来たくない」という人もいると思う。トイレの改修について、中長期的な取り組みではなく、短期的な取り組みとして、早急に行わないといけないと思う。

委員

展覧会観覧者数のカウントの仕方について、確認したい。

企画展と常設展示室(特集展示)については、同じ方が入った場合でも、合算しているのか。

事務局

合算している

委員

資料1の「7.総括」に「助成金獲得額の増加」とあるが、主にどのようなところからもらっているのか。

事務局

一番多くいただいているのは、芸術文化振興基金からである。昨年度でいうと、朝日新聞文化財団からもいただいている。2022年度はその二つである。2021年度は、芸術文化振興基金に加えて、花王芸術・科学財団からもいただいている。

委員

情報発信について、SNS、Instagram等では、具体的にはどのような情報を発信しているのか。

事務局

展覧会の担当者、広報担当者が、展覧会の作品に興味を引くような文章をつけて、発信している。また、管理係で展覧会の図録や関連グッズの紹介内容を発信している。

委員

版画美術館というのは、世界的にもめずらしい。来館できなくても話題になることは大事だと思う。その一方で、展覧会の企画した方自身が、そうした発信までするのは、大変なのではないかと思う。そのあたりが得意な人や、外部委託など、将来的にうまく展開させられるといいと思う。

事務局

現在進めているパークミュージアム構想のなかで、広報については、PFIの手法を取り入れて、民間事業者の協力を得ることなどを考えている。

(2) 2022年度後期の美術資料の収集状況について

○資料2について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

委員

町田市立国際版画美術館賞受賞作品について、9点で9万円とあるが、これは1点1万円ということか。

事務局

そうである。

(3) 2022年度前半期の事業の振り返りと総括について

○資料3、4、5について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

委員

展覧会について、独自色が出ている。版画美術館でなければ構想できないようなコンセプトで開催していることを、個人的にうれしく感じる。

委員

「版画×写真」展の報告書の事業経費にある「報償費」とは何か。

事務局

講演会等の謝礼や、借用のお礼などである。

委員

「自然という書物」展の図録が売り切れたことについて、何部くらい作製されたのか。

事務局

図録は1,200部作製した。増刷できればよかったのだが、巡回展ではないので納品されたところには展覧会が終了してしまうので、増刷できなかった。

委員

「出来事との距離」展について、「報道」ではなく「ニュース」という言葉を使ったのがなじみやすかったと思う。また、4人の若手作家を取り上げたことについて、企画の方が、そういうことを積極的に入れていくのはいいと思った。

事務局

「出来事との距離」展の若手作家4人は、全国大学版画展の受賞者である。学芸員も若手に入れ替わり、今後、収蔵作品のデータベースの導入が予定されていることもあり、各学芸員が、各々の担当部門の収蔵品を非常によく点検しなおしており、そのことが収蔵品を積極的に持ち出した展覧会づくりにもつながっている。

委員

資料4の「自然という書物」展の「展覧会情報の入手」のグラフで「②当館のTwitter」の数字が非常に伸びている。Twitter（現：X）などSNSによる効果があがった

め、来場者が増え、その結果、20代～60代までの幅広い世代が来場した、ということか。

事務局

20代の方に、Twitter（現：X）を見てきましたか、と直接聞いてはいないので、あくまでも印象だが、そうだと思う。

委員

展覧会について。細かく準備をして、そのあとの分析・報告もして、非常にいい、と思う。

「出来事との距離」で、全国大学版画展で収蔵された作品が活用されていることについて、大学側としては、ちょっと上の先輩が展覧会で展示されている、ということが、学生にとっても目標になる。また、それを観に行った学生がTwitter（現：X）で「町田の美術館でこういった面白い展覧会がある」ということを、拡散してくれる。これからも、若手の作品など、収蔵作品を生かして、情報発信をしていってほしい。

委員

版画美術館のコレクションのよさを活用しながら、チャレンジングなテーマ設定を行っていると思った。学芸員の世代も変わる時期にあり、新しい視点での収蔵品の見直しが行われており、うまく活用・研究されていることが、展示をみても伝わってきた。

版画と書物、版画と文字は、関係性が強く、親和性も高い。そのなかで、展示の仕方について、文字や内容をどう展示するかが難しいな、と感じる。展覧会への意見にも「見づらい」といったものが見られたが、それは版画というメディアの考えなくてはいけない部分ではあると思う。その部分を掘り下げてよい見せ方ができれば、もっと版画美術館のよさが伝わってくるのではないかと思う。うまくは言えないが、新しい何か見せ方ができてくると、版画の意味というのが深まってくると思う。

委員

企画展示室は二つに分かれていて、展示構成がある程度決まっているように思う。これについて、逆側から入るなど、展示の順路を変えられないか。違う導線をつくってみる、といった工夫を一度考えてみたらいいのではないか。

事務局

逆側から入る、という導線については、浮世絵の展覧会で一度やってみたが、入場口部分の展示が地味になってしまった。

委員

昔より見やすくなったと思っているが、いつも同じ導線になっていることが、気に

なっている。ディスプレイに予算をかけられない、など事情もあるかと思うが、検討する価値はあると思う。

(4) 2023年度前期の普及事業の振り返りと総括について（普及係）

委員

（普及事業の実施について）感染症対策がたいへんだったのではないか。

事務局

講座参加者に対して、マスク着用は任意とした。子ども講座の際は、マスクをしている子どもはほとんどいなかった。ただ、指導をする場面では、どうしても顔と顔が近づいてしまうので「気になる方は、マスクをご着用ください」と事前に伝えた。なお、職員側は、市民と接するときは、基本的にマスクを着用するようにしている。

委員

アトリエを使った普及事業は、版画美術館の特徴であり、大事な事業だと考える。講座の様子を、画像などで残し、できればYouTubeなどで公開することなどが将来的にできるといいと思う。今は、世界中のいろんな人がいろんな技法の動画を、YouTubeなどにあげている。版画美術館では、せっかく講座でさまざまな先生がこられており、新しい試みのある技法、工夫のあるワークショップなどを行っているかと思うので、公開にはいろいろ問題があるかと思うが、まずは将来的な公開ができるよう、講座の記録をとっておくということを考えてほしい。道具自体と道具を使う技法の大事さは、これからどんどん増していく。動画などがネット上にあがっているものの、実際にやってみると違ったりする。そうしたことから、版画美術館のアトリエにあれば、こういった道具があり、使い方も教えてもらえる、ということが伝わると、美術館の魅力がより伝わるのでは、と思う。

委員

「記録」の問題については、私もこれまで何回も提案させていただいている。版画美術館は1987年の開館ということで、これまで紀要などで記録を残していると思うが、何かしらのかたちで、見られる状況を作っておくことが大事だととても思う。これから、休館になる期間もあるかと思う。そういう時間があるので、1年とかでは無理かと思うが、何年かかけて今までの記録をきちんとまとめることは、版画美術館の義務だと思う。きちんとした工房があり、いい先生もたくさん呼んでいて、いろんな企画もやってきている。いろんな方も育っている。そういうものをちゃんと残しておくことが、工芸美術館ができて、二館になって新しく再出発する時に、これからの50年、100年を見るうえで重要だと思う。一回、振り返ってみる、ということが必要だと思う。

新しい学芸員の方もずいぶん入っているとのことなので、その方たちと、このことについて話してみてもいいか。版画美術館が開館した80年代の頃と比べて、現

代における版画のあり方もかわってきている。現代の版画の状況、問題点、見直しとか、そういうものをテーマにした問題提起のような講座を行ってもいいと思う。これからの版画について、そういう視点も必要かと思う。

委員

エレベーターの前のビデオコーナーで、そういった動画は流れていないのか。

事務局

技法のビデオは流している。

委員

せつかくそういう場所があるのだから、そこで流しっぱなしにしてもいいと思う。

2. 審議事項

(1) 2024年度事業（案）について

○資料7及び8について事務局から説明。

○委員からのご意見、ご質問等

なし

会長

審議内容を承認とする。

3. その他

(1) 仮処分申し立てについて

○国際版画美術館等に関する工事の差止を求める仮処分命令申立事件の却下決定（2022年11月25日付け東京地方裁判所）に対する即時抗告があったが、知的財産高等裁判所から2023年3月31日付けで本件抗告を棄却する旨の決定書が到達し、特別抗告がなかったことにより、却下決定が確定したことを、事務局から口頭で説明

(2) 芹ヶ谷公園“芸術の杜”パークミュージアムスケジュール等について

○追加資料について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

委員

資料の内容について、確認したい。版画美術館自体の工事は2026年5月頃から始まるが、その前にエレベーターや公園の工事が始まり、美術館にも振動等があるため、2024年10月から企画展等の展示事業に影響が出る、という理解であっているか。

事務局

(仮称) 国際工芸美術館整備工事に伴う音・振動などの影響が、2024年10月頃からでる可能性があるため、展示事業を行わない、ということである。なお、この時期に、美術館についても修繕を行う予定で、先ほどあったトイレの改修についても行う予定である。版画美術館の修繕時期については、展示事業を行えない期間をできるだけ短くするために、(仮称) 国際工芸美術館整備工事による影響が出る時期と同時期に設定している。

○閉会の宣言 (会長)

—以上—